

中込内科じんぶん

5月号



発行所

中込内科医院

〒010-0973

秋田市八橋本町3-1-5

TEL 018-862-1564

FAX 018-866-4655

E-MAIL

nakagomi@cna.ne.jp

URL

http://www.cna.ne.jp/~nakagomi/

今月の特集 腹痛について

I. 腹痛とは

心窩部（みぞおち）から恥骨上部までの腹部全体あるいは限局した部分に痛みを自覚するものが腹痛です。最もありふれた症状の一つですが、腹痛をきたす疾患は実に様々です。消化器疾患だけでなく、婦人科疾患、泌尿器疾患など多岐にわたるため、初期にはその診断が不明であることも少なくありません。しかし、なかには手術など緊急処置を要するような重篤な病態が隠れていることもあり、はじめの症状が軽くても軽い病態と決めつけることは避けなければならず、注意が必要です。

II. 腹痛の原因・分類

腹痛の分類は、機序による分類と部位による分類が一般的です。機序による分類では、その機序により内臓痛、体性痛、関連痛の3つに分類されます。部位による分類では、①心窩部、②右上腹部、③左上腹部、④臍周囲、⑤右下腹部、⑥左下腹部、⑦下腹部、⑧腹部全体の痛

III. 腹痛のメカニズム

腹痛はその発生機序から、内臓痛、体性痛、関連痛の3種類に分類されます。

1. 内臓痛

胃腸、胆のう、尿管などの臓器の平滑筋の伸展や痙攣、蠕動の亢進などによって生じる痛みのことをいいます。管壁に分布する内臓知覚神経や筋層の間の神経が刺激され、脊髄を介して脳に痛みを伝えます。

痛みの性状は、間欠的で、鈍くしめつけられるような痛みを感じますが、痛みの部位ははっきりしないことが多いようです。しばしば、嘔気、嘔吐、顔面蒼白、冷汗、血圧低下などの自律神経症状を伴いますが、これは内臓痛が自律神経線維を介して脳に伝えられるためです。内臓痛をきたす疾患には、逆流性食道炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性胃炎、胆道系の結石、膵炎、急性虫垂炎の初期、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群、尿

2. 体性痛

路結石などがあります。壁側腹膜、腸間膜、横隔膜に炎症あるいは機械的な刺激が及んだ際に、これらに分布する脊髄神経を介して生じる痛みです。

痛みの性状は、持続的で突き刺すような鋭い痛みで、体を動かすことによって症状が強くなります。痛みの部位は多くが限局性で、痛みの最も強い部分を指で指すことも可能です。

体性痛をきたす疾患には、胃・十二指腸潰瘍の穿孔や急性膵炎、進行した膵癌、胆道系の炎症および癌、急性肝炎、肝腫瘍、急性虫垂炎の後期、大腸憩室炎の穿孔などがあります。

3. 関連痛

内臓痛が体表に投影された痛みで「放散痛」とも呼ばれます。内臓からの神経と皮膚からの神経が同じ脊髄から入り、脊髄視床路に達する際に両者が重複して短絡を生じるために生じます。つまり、内臓からの痛みが皮膚の痛みとして誤って認識されるために生じる痛みの事を指します。たとえば、食道の場合には左腋窩（脇の下のかぼみ）に、胃

の場合には心窩部から両側腹部、放散します。尿管の痛みは下腹部方向へと放散します。このほかに虚血性心疾患では心窩部から肩へ放散することがあり、注意を要します。

IV. 腹痛を起こす疾患・状態

（腹痛を起こす代表的な疾患の特徴やそれに伴う症状について）

1. 消化器疾患

①胃腸炎：胃や腸の急性炎症では、多くの場合両者が同時に存在して急性胃腸炎となります。頻度は多く、痛みは内臓痛由来で、臍周囲の鈍痛が多くみられます。原因はいわゆる食中毒によるものやかぜ症候群や気管支炎などの腸間外感染などがあります。下痢、嘔吐、発熱を伴います。

②消化性潰瘍：胃液にさらされている範囲内の消化管壁上皮組織の欠損で、一般には胃潰瘍と十二指腸潰瘍をいいます。心窩部痛や上腹部痛が出現し、悪心、嘔吐を伴います。ステロイド薬や非ステロイド性消炎鎮痛剤の内服でも消化性潰瘍や穿孔をきたすことがあります。また、食事と関連した痛みがみられる特徴があります。胃潰瘍では過食時や食後に痛みがみられることが多く、十二指腸潰瘍では逆に空腹時の腹痛がみられ、食後に改善します。出血を伴えば貧血や黒色便がみられます。穿孔により腹膜炎を起こす危険性があります。

③胃食道逆流症：胃内容物が逆流することにより、不快な症状や肺炎などの合併症を起こした状態の総称をいいます。大きく分けて、内視鏡で胃食道接合部における粘膜障害を認められる逆流性食道炎と粘膜障害は認められないが定型的な症状を呈する非びらん性胃食道逆流症に分けられます。症状としては心窩部痛や胸やけなどがみられます。心疾患と紛らわしい場合も多くあります。

④急性虫垂炎：発症初期には心窩部、上腹部痛や臍周囲の内臓痛で発症することが多くみられます。内臓痛のため、悪心や嘔吐などの自律神経症状を伴います。その後しだいに右下腹部へ限局した体性痛へと移行し圧痛(圧迫に際して生じる痛み)がみられるようになります。軽度の発熱がみられ、採血上は白血球が増加するようになります。

⑤腸閉塞：腸内容の通過が妨げられ、閉塞部の口側に腸内容が貯留し、腸管の拡張がおこります。拡張腸管は分泌亢進、吸収低下のためいっそう拡張するという悪循環が起こり、急速に全身状態が悪化します。原因として、術後の癒着、かん頓ヘルニア、大腸癌が多くみられます。典型的で、数分おきに発作性の波がみられます。嘔気、嘔吐、腹部膨満、排便と排ガスの停止が伴います。

⑥過敏性腸症候群：便秘や下痢などの便通異常が持続します。腹痛は排便により軽快がみられます。ストレスにより症状が悪化します。

⑦胆嚢炎：持続性の心窩部痛や右上腹部がみられます。右肩甲骨下部に痛みが放散することがあります。悪心・嘔吐を生じることが多くあります。

⑧急性膵炎：痛みは上腹部に始まり、背部に放散することが多くあり、悪心・嘔吐を伴うこともあります。アルコールによるもの、胆石によるものなどが主な原因になります。

2. 心血管系疾患

①胸部大動脈解離：胸部、腹部、背部に鋭い裂くような痛みを起こします。痛みは発症時に最も強く、進行するにしたがつて下方へ移動します。

②心筋梗塞または虚血性心疾患：鈍い心窩部の不快感を生じることがあり、消化性潰瘍などと混同されることがあります。

3. 婦人科疾患

①子宮外妊娠：受精卵が子宮内腔以外の場所に着床して発育することをいいます。下腹部痛、無月経、陰出血を伴います。妊娠反応陽性を示し、卵管に着床した場合、破裂による出血や重度の痛みから出血性ショックを起す危険性があります。

4. 泌尿器系疾患

①尿管結石：痛みは発作性で、結石の動きとその後の尿管収縮により出現します。側腹部痛や腰背部痛がみられ、嘔気、嘔吐

も伴うことがあり、尿は血尿の場合が多いです。

5. 心因性腹痛

痛みの身体的説明が見出せず、症状が繰り返したり、しばしば症状が変化したりする場合があります。嘔気、嘔吐、頭痛、食欲不振などの不定愁訴が多くみられます。

6. 腹膜炎について

腹膜炎には、体性痛のほか腹膜刺激症状が伴います。腹膜刺激症状は、腹膜への炎症の波及のため咳嗽や体を動かしたときに腹痛が強くなり、腹部の触診で腹壁の強い緊張や反跳圧痛(腹部を押したときよりも離したときの方が痛みが強い)を呈します。腹膜炎が疑われると、手術の適応を早急に決定しなければなりません。

V. まとめ

腹痛は日常において、頻繁に出現する症状の一つです。誰でも経験したことのある症状ではないでしょうか。しかし原疾患はさまざまであり、軽症の場合から緊急処置を要する場合まで幅広いため、すみやかな診断・治療が要されます。そのため医療機関を受診した際には、聴診や触診などの身体的検査や血液検査などの臨床検査のほか、問診が重要となります。痛みの場所、性状、経過、痛みの出現する状況や改善する状況などを把握しておくことが大切です。

【今日の記事 看護師 須藤】

編集後記

新型コロナウイルス感染症が世間を騒がせていますが、現段階では、咳や鼻水等の気道の炎症に伴う症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛等を伴うのが特徴だそうです。もし症状があつて思い当たること(メキシコ、アメリカ、カナダへの渡航、兵庫県及び大阪府への旅行、新型インフルエンザ患者さんとの接触等)があつた場合は、直接医療機関を受診するのではなく、発熱相談センター(83・1299)へお電話してください。それ以外の方は、受診前に当院へお電話ください。先日テレビでやっていましたが、アメリカやヨーロッパではマスクをする習慣がないそうです。マスクがどこに売っているのか知らなかったり、使い方がわからずマスクを頭にかけた人もいて、笑えました。笑いごとですませたいのか微妙ですが・・・。

逆に欧米人からすると、マスクをしている日本人が奇妙に思えるらしいです。マスクは自分への感染予防だけでなく、他人様にうつさないようにしようという気遣いもあります。人は、やっぱり素敵だと思いませんか♪

【事務長 奈良】